



いずみ

令和6年9月30日発行

<学校教育目標>
自ら行動する子
かかわり合い、
よりよい自分を
目指す子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

新しい農園から

校長 鷲見 真太郎

学童クラブ及び KoKoA の施設建設に伴い、本校の学校農園が移設されました。校庭の奥なので、校舎からは少し離れてしまいましたが、現在の農園の8割ほどの広さがあり、目いっぱい使えば今の規模と同量の作物が栽培できます。また、これまで JA の宮崎さんや農家の富永さん、元 PTA 会長の白井さんが丹精込めて作ってくださった素晴らしい土も、新しい場所にそのまま移設できたため、ほぼこれまでと変わらない活動が続けられます。そこで早速、宮崎さんの耕運、富永さんと白井さんによる畝づくり・マルチシートかけ等の御協力をいただき、9月21日(土)に種や苗の植え付けを行うことができました。

今年度がさらにパワーアップしたと感じるのは、まず参加人数と多様さです。本校児童やきょうだい、卒業生、保護者等、誰でも参加できます。4月・9月ともに、理科栽培・給食委員会の児童だけでなく、むしろそれ以上に、全ての学年から興味のある児童や保護者等、延べ100人近い参加者が集まりました。卒業した中学生も来校し、多くの人に愛されている農園なのだと、改めて実感しています。

また、植え付けが終わった後も、様々な児童のかかわりや取組が続きます。まず、雑草との闘い。特に初夏や秋口は委員会の児童や主事さん方のお手伝いだけでは追いつきません。そこで、一昨年度から、理科栽培委員会の提案で行われているのが、「雑草抜きまつり」です。学年ごとに量を競い合い、トップは昼の放送で表彰されます。学年によって差はありますが、全校の半数以上の児童が参加してくれるおかげで、畑の作物も雑草に負けることなく元気に育っています。

そして収穫の時期になると、低学年中心に興味をもった児童が自由に出入りし、栄養教諭や委員会の先輩たちのサポートのもと、収穫します。虫取りに夢中になってしまう児童もいますが、朝、教室に入る前の、気持ちを切り替えるワンクッションとして、大きな役割があるということ、この取組を始めたことで改めて発見しました。「5年生になったら、理科栽培(給食)委員会に入りたい」と言い、実際にそうした思いを実現して委員会に参加している児童もいます。

栽培・収穫、そして給食を通して食し、販売するという一連の循環した活動も本校の特色として誇れることですが、伝統として低学年から卒業生にまで連綿と続いていく流れや保護者・地域とのつながりも、今後、学校の大きな財産となると感じています。取組を始めた3年前に委員会が命名した「きずなみどり畑」というネーミングがこのような意味をもつのか、と子供たちの慧眼に改めて感心するとともに、本校の宝である農園が、さらなる絆を育み続けることを願っています。

10月の生活目標

なかよく行動しよう

- 友達と誘い合ってなかよく遊ぶ
- 協力して当番や係の仕事に取り組む

10月の安全指導

安全で落ち着いた生活

- 安全に過ごすために、危険な場所には入らないよう指導します。
- 廊下歩行や道路歩行などについての交通ルールを確認します。